



精華地域学校規模適正化検討協議会ニュース



第1号

平成26年5月15日
教育政策課

奈良市学校規模適正化について

本市では、少子化により子どもの数の減少が続き、多くの地域で学校の小規模化が進んでいます。小規模校の良さはありますが、小さすぎる場合には教育的効果を十分にあげられない状況が考えられ、統合再編等を含めた学校の規模及び配置の適正化（学校規模適正化）が必要となっています。

教育委員会では、奈良市学校規模適正化検討委員会からの提言を受け、平成20年1月に「奈良市学校規模適正化実施方針」と「中学校区別実施計画（案）」を策定し、より良い教育環境の整備・充実のため学校規模適正化に向けた取組を進めています。

精華小学校の現状

学年	人数	男子	女子
1年	2人	2	0
2年	3人	1	2
3年	2人	0	2
4年	5人	3	2
5年	0人	0	0
6年	3人	3	0
合計	15人	9	6

複式学級や男子のみ、女子のみの学年があります。

今後も、全校児童20人以下の状態が続きます。

	中期			後期		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
精華小	22	15	18	15	16	18
帯解小	141	148	127	120	117	111

精華小学校は過小規模校(1~5学級または6学級で100人未満)にあたります。

メリット

- ・児童の相互理解が深まりやすい
- ・一人一人が主役として活躍することができる
- ・一人一人に目が行き届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい

デメリット

- ・グループ学習の実施が難しい
- ・学校行事の運営が難しい
- ・人間関係が固定化し、他者と関わる機会や切磋琢磨する機会が少ない

このことを踏まえて

集団活動ができる人数を確保し、教育環境を整える観点から、精華小学校と帯解小学校との統合再編を検討しています。

第1回精華地域学校規模適正化検討協議会を5月7日(水)に開催されました。

会長・副会長が選出されました。

委員は地域住民の代表12名、保護者代表7名、学校関係者6名の計25名で構成されています。

会長 赤井正一さん(精華地区自治連合会会長)

副会長 岡口吉偉さん(高樋町自治会長)、梅寿さん(精華小学校PTA会長)

協議会では、次のご意見やご質問をいただきました。(概要)

(→事務局の回答)

○今回統合したとして、今後さらに別の学校と統合するような事態は起こりうるのか。

→現段階ではそのような計画はありません。ただし20年後、30年後と長い目でみると、そのときの児童の人数によって、再び統合することも考えられます。

○今回の統合再編は精華の吸収合併のように感じる。統合再編した場合、学校名や校歌などはどうするのか。

→両地域の対等な話し合いの中で、決めていくことになります。

○互いの学校の特徴や良いところが見えてこない。精華小は人数が少ないからこそ良いところがある。

→精華小は地域とのつながりが強く、児童一人一人にきめ細やかな指導がされています。統合再編後も、両校の良いところを互いに取り入れた教育を展開することが大切です。

○帯解地域の方の協議会はどのような状況なのか。

→帯解地域にも協議会があります。両地域の声をしっかり聞いて対応します。

○毎回同じような質問と回答を繰り返している。引継はきちんとできているのか。

→これまで説明会は何度か開催してきましたが、協議会というものについては今回が初回となります。また、記録や引継は行っています。

○H19年度に開催された精華地域学校規模適正化推進協議会の内容と委員の任期についてはどうなっているのか。また、この統合再編計画において市教委の目標としていっているところについて知りたい。

→次回の協議会(5月19日開催)で回答いたします。

○精華小の保護者の実態や意見を聞きたい。



第2回学校規模適正化検討協議会は、5月19日(月)に開催されます。

お問い合わせ先

奈良市教育委員会事務局教育政策課

TEL 34-5386

※記載内容の訂正について

「帯解地域の方の協議会はどのような状況なのか。」という質問の回答について

(誤) 帯解地域にも協議会があります。 (正) 帯解地域では、平成20年に協議会の準備を進めていただいていたおりましたが、協議会は開催されておられません。